

目 次

I 緒 言	1
II 兵庫県南西部の地震活動	2
III アンケート調査の方法・内容・回収率等	10
IV 職域別アンケートの解析結果	14
V 個人別アンケートの解析結果	27
VI 県市町などの公的機関への要望	37
VII 考 察	38
VIII 結 語	41
参 考 文 献	42

I 緒 言

昭和59年5月30日9時39分頃、兵庫県南西部の山崎断層系の暮坂峠断層を震源とするとと思われるM：5.6の地震が発生した。気象庁の発表によると、兵庫県では姫路で震度Ⅳの他はすべて震度Ⅲであった。しかし、震源付近の山崎町及び竜野市の学校の被害状況は、神戸大学工学部の調査によると、幾つかの鉄筋コンクリート校舎に構造的な損傷が認められることから、震源域では震度Ⅴかそれに近い揺れがあったのではないかとと思われる。

兵庫県南西部は震度Ⅳを約20年ぶりに経験したという、言わば地震処女地である。また、震度Ⅳの震動とは大きな被害が発生しない極限の揺れでもある。このような地震学的背景下で、今回の体験は地域住民・職域職員がどのような反応・行動を示したかを調べる適当な大きさの地震であると思われる。従って、今回の地震時の地域住民・職域職員の反応・行動を、今後の防災対策の資料のひとつにする為、調査を行なった。その結果を以下に報告する。 【中略】

Ⅲ アンケート調査の方法・内容・回収率等

今回配布したアンケート調査表は表6（43頁）に示した内容で、兵庫県消防交通安全課が表7の県下各市町に配布・回収した。配布枚数は2,478枚である。

表7 アンケート配布先・配布数・回収数・回収率（職域別）

市町名	全配布数	全回収数	回収率	職域別回収数									平均推定読度
				市役所 町役場	消防	学校	病院等	金融 機関	農協	スーパー マーケット	旅館	企業	
(西播磨地域)			％										
姫路市	300	268	89.3	52	58	48	8	5	37	13	0	47	3.3
相生市	100	77	77.0	22	8	11	1	0	6	15	0	14	3.1
竜野市	100	92	92.0	31	2	22	1	3	9	5	0	19	3.7
赤穂市	100	86	86.0	29	3	21	5	0	0	1	2	25	3.1
夢前町	50	29	58.0	10	0	5	0	0	1	0	0	13	3.3
家島町	50	37	74.0	15	0	6	0	7	5	0	0	4	3.0
市川町	50	45	90.0	12	1	13	1	1	4	0	0	13	3.3
福崎町	50	44	88.0	5	0	12	1	0	9	2	0	15	3.2
神崎町	50	29	58.0	12	0	12	0	0	0	0	0	5	3.4
香寺町	50	44	88.0	27	0	8	0	0	9	0	0	0	3.4
大河内町	50	39	78.0	20	0	1	0	5	11	0	0	12	3.4
神宮町	50	31	62.0	7	0	10	0	0	11	3	0	0	3.6
太子町	50	36	72.0	9	4	4	0	0	7	0	0	2	3.4
揖保川町	50	29	58.0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	3.6
上郡町	50	32	64.0	12	0	7	0	0	4	1	0	8	3.1
佐用町	50	55	110.0	15	4	7	6	0	8	4	0	11	3.2
南光町	50	46	92.0	15	0	8	3	4	7	0	0	9	3.1
三日月町	50	31	62.0	13	0	10	0	0	2	0	0	6	3.1
山崎町	50	39	78.0	8	2	10	0	6	3	3	0	7	3.5
一宮町	50	48	96.0	16	2	7	0	5	8	0	0	10	3.2
波賀町	50	27	54.0	10	0	2	0	0	10	0	0	5	3.1
千種町	50	39	78.0	21	0	0	0	0	18	0	0	0	3.1
安宮町	50	34	68.0	9	0	7	0	0	3	0	0	15	3.3
(東播磨地域)													
明石市	100	31	81.0	13	19	27	0	4	2	4	0	12	2.9
加古川市	100	90	90.0	17	20	13	0	3	12	10	0	15	3.2

市町名	全配布数	全回収数	回収率	職 域 別 回 収 数									平均推定浸透度
				市役所 町役場	消防	学校	病院等	金融 機関	農協	スーパー マーケット	旅館	企業	
高砂市	98	97	99.0	17	19	16	1	0	14	15	0	15	3.2
福美町	50	38	76.0	14	0	0	0	0	9	0	0	15	2.9
播磨町	50	34	68.0	10	0	6	2	3	3	0	0	10	2.9
(但馬地域)													
豊岡市	50	35	96.0	5	7	5	4	3	5	0	3	3	2.6
日高町		8		3	2	0	0	0	3	0	0	0	2.3
出石町		5		3	0	0	0	0	2	0	0	0	3.0
城崎町	15	14	93.3	4	2	3	0	2	1	1	0	1	2.4
浜坂町	50	7	100.0	3	0	0	1	0	2	0	0	1	2.3
温泉町		32		1	8	8	1	3	3	1	6	1	2.4
美方町		5		3	0	0	0	0	2	0	0	0	2.0
村岡町		6		1	0	0	2	1	2	0	0	0	2.4
八鹿町	50	22	86.0	4	2	1	1	0	4	0	0	10	2.4
大屋町		7		0	0	1	0	0	4	0	0	2	3.0
養父町		12		2	4	1	0	0	3	0	0	2	2.3
関宮町	50	2	98.0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3.0
和田山町		15		3	3	3	0	1	0	5	0	0	2.9
朝来町		8		3	0	2	0	1	2	0	0	0	2.9
生野町		9		4	1	3	0	0	0	0	0	1	3.0
山東町	300部は未回収	17		4	0	3	0	0	0	0	0	10	2.8
その他													
合 計	2478	1781	71.9	513	171	323	38	57	247	83	11	338	

このアンケート調査表の内容及び配布先は、大地震の時によく行なわれる従来のものとやや異なり、各市町の下記の各職域に配布した。

- (1) 市役所・町役場
- (2) 消 防 署
- (3) 学校・幼稚園・保育園等
- (4) 病院・保健所・老人ホーム等
- (5) 金融機関（郵便局・銀行等）
- (6) 農業協同組合
- (7) デパート・スーパーマーケット等
- (8) 旅館・ホテル等
- (9) 企業（会社・工場等）

このアンケート調査表は第1部と第2部とからなり、第1部は上記各職域の職員に記入して載き、第2部は各家庭に持ち帰って記入して載いた。

第1部では主に各職域で地震時にどのような反応を示したか、第2部ではそれに加えて各地の震度を推定するのを主目的とした。

表7には各市町への配布枚数、回収数、回収率と各市町毎の職域別回収数及び各市町の平均推定震度を示した。

このアンケート調査の回収率は第1部71.9%、第2部は69.6%（表8参照）であった。

表8 アンケート調査表（個人別）の市町別回収数及び平均推定震度

市 町 名	回 収 数	平均推定震度	市 町 名	回 収 数	平均推定震度
（西播磨地域）			（東播磨地域）		
姫路市	283	3.3	明石市	63	2.9
相生市	56	3.1	加古川市	110	3.2
竜野市	87	3.7	西脇市	1	2.5
赤穂市	88	3.1	高砂市	81	3.2
夢前町	30	3.3	三木市	3	2.9
家島町	35	3.0	小野市	3	3.4
市川町	45	3.3	加西市	5	3.2
福崎町	41	3.2	龍野町	1	3.3
神崎町	24	3.4	福美町	29	2.9
香寺町	50	3.4	播磨町	19	2.9
大内町	38	3.4	（但馬地域）		
新宮町	32	3.6	豊岡市	31	2.6
太子町	33	3.4	日高町	11	2.3
御津町	9	3.4	香住町	2	2.9
揖保川町	24	3.6	竹野町	1	2.4
上郡町	34	3.1	城崎町	5	2.4
佐用町	39	3.2	出石町	4	3.0
上月町	11	3.0	浜坂町	11	2.3
南光町	45	3.1	温泉町	19	2.4
三日月町	28	3.1	美方町	2	2.0
山崎町	46	3.5	村岡町	7	2.4
一宮町	38	3.2	八鹿町	15	2.4
波賀町	36	3.1	大屋町	9	3.0
千種町	35	3.1	養父町	8	2.3
安富町	25	3.3	関宮町	8	3.0

市 町 名	回 収 数	平均推定濃度	市 町 名	回 収 数	平均推定濃度
和 田 山 町	13	2.9	宝 塚 市	1	2.9
朝 来 町	13	2.9	(淡 路 地 域)		
生 野 町	4	3.0	淡 路 町	1	4.8
山 東 町	14	2.8	(大 阪 地 域)		
(神 戸 地 域)			大 阪 市	2	2.2
神 戸 市	14	2.5			
(阪 神 地 域)			総 配 布 数	総 回 収 数	回 収 率
西 宮 市	2	2.6	2,478	1,724	69.6%

【 中 略 】

V 個人別アンケートの解析結果

個人別アンケート調査の主目的は、質問項目の内容（表6参照）から判る様に、その地点の震度を推定する事にある。震度の推定方法は、質問項目6～32の各選択肢毎に震度係数が決まっている。各アンケート毎に各質問項目から得られた震度係数の平均値をその地点の推定震度とした。最高推定震度は5.5 最低推定震度は1.0であった。この様にして得られた各地点の推定震度を、兵庫県を経緯度

（アンケート第2部（個人別）から推定した各地点の震度を経緯度2'メッシュ内に落したものを平均した震度、図中の◎印は震央）

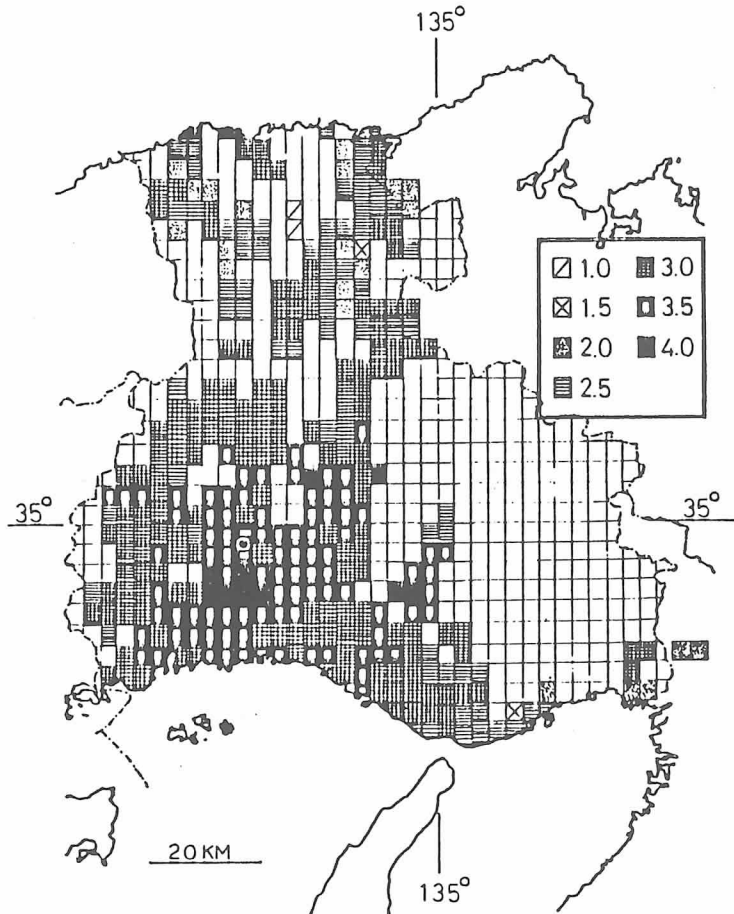


図13 兵庫県下の推定震度分布

（アンケート第2部（個人別）から推定した各地点の震度を経緯度2'メッシュ内に落したものを平均した震度、図中の◎印は震央）

2分毎の網目に分け、各網目内に落ちる推定震度の平均を各網目内の平均推定震度として図13に示した。図中●印は震央である。この図から山崎断層系の北側より南側で高い震度を示している様に見える。図14は各市町毎にアンケートより得られた推定震度を平均したもので、物理的意味は薄い、各市町間の相対的な揺れの度合を示している様に思える。

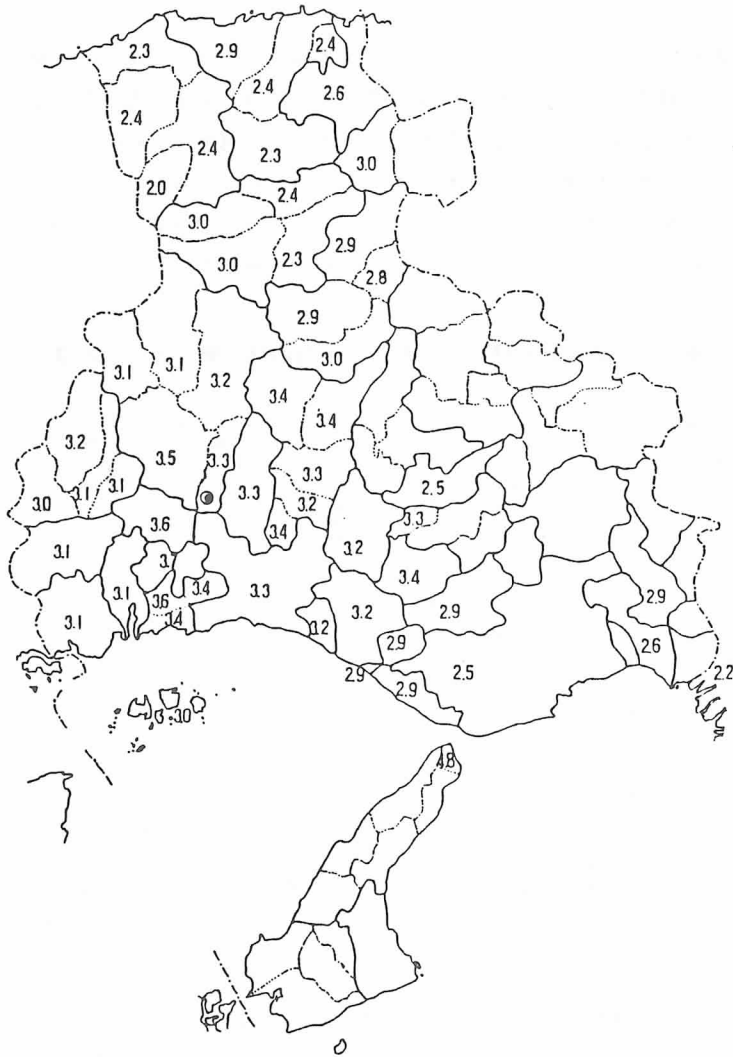


図14 各市町の推定平均震度
(アンケート第2部(個人別)から推定した各地点の震度を各市町毎に平均した震度)

【 後 略 】